

「水になりなさい」

岡山県

矢掛町

金龍寺

住職

祐川勝善

私は、二〇年ほど前に修行をさせていただきました。修行道場に入ってからすぐの頃、早く一人前の僧侶になりたいと気負っていた私は、これは役に立つだろうか？これは必要だろうか？などと考えながら、日々の修行を行っていました。まさに自分勝手な修行です。

しかし、現実には甘くはありません。仕事や作法の覚えも悪く、失敗ばかりし毎日先輩方から叱られていました。「これではダメだ」と思った私は、今度はミスをしないよう、怒られないよう過ごそうとしてみました。まさにやらされる修行です。もちろん上手くいかず失敗ばかりで、毎日怒られました。

精神的に追い詰められながら、なんとか日々の修行を行っていたある日。いつものようにぼんやりと朝のお勤めに出ていた私は、本堂の真ん中で礼拝をするご老師に、目が釘付けになりました。「なんと丁寧な、心のこもった礼拝なのだろう」と。ご老師の礼拝は、仏さまに身も心もゆだねた純粋な感謝の思いにあふれた礼拝でした。

朝のお勤めの後、ご老師は修行僧にお話をしてくださいました。「水になりなさい。水はどんな器でも自由自在に姿を変え、その器を満たしていきます。あなた方も自分という枠を取り払って、修行道場という器に身をゆだねて、しっかりと行じていきなさい」とお話しくださいました。

私はハッとしました。ご老師が言われた「修行とは、自分という枠を取り払い、仏さまに身も心もゆだねること」は、修行とは何かを悩んでいた私が求めていた答だったからです。「あれこれ考えるのではなく、目の前にあることを一つ一つ丁寧に going」と思った時、肩の力が抜け心も身体も楽になりました。みなさんも自分という枠を取り払い、今日の前にある事実に向き合ってみませんか。